

2026 年 7 月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	23,616,746	21,620,576	109.2%
国内旅行	5,201,705	5,428,985	95.8%
訪日旅行	1,099,379	948,688	115.9%
合 計	29,917,830	27,998,250	106.9%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	前年同月比
アジア	114.4%
オセアニア・南太平洋	122.5%
ハワイ・ミクロネシア	118.6%
欧州・中近東・アフリカ	95.4%
北米・中南米	125.0%

商品別	前年同月比
手配旅行	109.5%
企画旅行	110.8%

チャネル別	前年同月比
店舗	104.3%
オンライン	102.9%
法人	134.9%

■ 海外旅行

「SUPER SUMMER SALE! FINAL 2026」を開催し、燃油サーチャージの値上げや物価高騰、円安などによる海外旅行への費用負担を軽減する商品を多数展開することで、秋から年末年始にかけての早期集客に努めました。

取扱高においては、引き続き間際需要を取り込んだ韓国が前年同月比 113.6%と堅調に推移しました。また LCC を利用したツアーが牽引した豪州が同 125.5%と大幅に伸長しました。長距離路線では、サッカーの国際大会の影響もあり北米・中南米が同 122.7%と好調に推移した一方で、欧州・中近東・アフリカは、引き続き中東情勢などにより影響もあり同 95.4%と前年を下回る結果となりました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比 109.2%の 236 億 1,674 万円となりました。

■ 国内旅行

夏休みの旅行需要獲得に向けて「SUPER SUMMER SALE! FINAL 2026」を展開したほか、ダイナミックパッケージ（航空券＋ホテル）では最大 10,000 円引きクーポンの配布や、取扱拡充にむけた新規レンタカー会社との接続拡大を行うなど、各種販売支援施策を実施しました。また、自治体との連携施策として「ひなタビみやぎ宿泊キャンペーン」を展開するなど、積極的な需要喚起に努めました。

取扱高においては、沖縄・九州方面における航空機利用商品の商材が好調に推移したほか、夏の風物詩である花火観賞、上高地・鳴沢氷穴など「涼」を求めるバスツアーが人気を集め、全体を下支えしました。一方で、前年に特需のあった関西方面における大きな反動減が響き、全体の取扱高を押し下げる要因となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比 95.8%の 52 億 170 万円となりました。

■ 訪日旅行

訪日外国人旅行者の利便性向上および顧客基盤の拡大に向け、航空会社とのマイレージサービス連携を導入し、原宿の観光案内拠点における手荷物預かりサービス利用でのマイル付与を開始するなど、対象サービスは順次拡大を予定しています。

取扱高においては、欧州市場にて 7 月過去最高の取扱高を更新したことに加え、昨年落ち込んだ一部のアジア市場からの個人旅行のレジャー需要の回復や、北米・東南アジアなど多角的な市場からの大型案件・受注獲得が寄与し、全体の数字を大きく牽引しました。以上の結果、訪日旅行事業全体の取扱高は、前年同月比 115.9 %の 10 億 9,937 万円となりました。

2026 年 7 月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比106.9%の 299 億 1,783 万円となりました。

2026 年 7 月 海外における旅行取扱高状況報告

＜ 海外における旅行区分別 ＞

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	17,940,082	15,467,506	116.0%
アウトバウンド	10,717,897	9,640,772	111.2%
合 計	28,657,979	25,108,278	114.1%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 31 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。 海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しております。

■ 海外インバウンド

XR 技術を活用した新たな観光エンターテインメントツアー「XploreRide New York」の運行を、アメリカ・ニューヨークで開始し、体験型コンテンツの拡充に努めました。

方面別の取扱高では、中近東方面においてツアー不催行の影響が残ったものの、欧州方面が前年同月比 129.8%と好調に推移し全体を牽引いたしました。欧州の各国ごとの多様な需要を捉えたアプローチが奏功し、ドイツでは夏季休暇期に合わせたアジアからの教育旅行需要を捉えたほか (同 101.1%)、イギリスにおいても東アジアや中東からの受客が大きく拡大し (同 140.0%)、ノンジャパニーズマーケットの獲得強化につながりました。カナダにおいては、宿泊費が高騰したサッカー国際大会の開催時期を避けた需要を取り込み、夏のベストシーズンを迎えたバンクーバーやバンフ、トロントを中心に、大自然を絡めた観光や都市観光の需要を確実に取り込み、同 109.8%と7月としては過去最高の取扱高を達成しました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 116.0%の 179 億 4,008 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

送客取扱高の 8 割以上を占めるカナダにおいては、中東情勢の緊迫化やヨーロッパの酷暑により、該当地域への旅行を控える動きが見られた一方、カリブ海およびメキシコといった人気リゾート地へのクルーズ旅行が好調に推移し、2 か月ぶりに前年を超え (前年同月比 112.8%) 全体を牽引しました。アメリカでは文化交流を伴うボーイスカウト等の大型団体手配を獲得したほか (同 110.4%)、オランダにおいてもスクールホリデー期間中の需要を捉え、伝統文化や自然体験を盛り込んだゴールデンルート巡りなど (同 128.9%)、日本行き旅行の需要が伸長しました。さらに、インドネシアにおいてもスクールホリデー期間が追い風となり、インドネシア国内および近隣アジア諸国行きのレジャー向けパッケージツアーの需要が奏功し、同 135.6%と大幅に伸長しました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 111.2%の 107 億 1,789 万円となりました。

2026 年 7 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 114.1%の 286 億 5,797 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R 室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177